

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600276		
法人名	社会福祉法人 あおい福祉会		
事業所名	グループホームさくらの苑(ポピー)		
所在地	帯広市西6条北5丁目14番地11		
自己評価作成日	令和2年12月20日	評価結果市町村受理日	令和3年4月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0194600276-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和3年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念である、「地域の方々の生きるを支援し、心身ともに健やかで、心地よい生活が出来る様努めます」を、念頭に掲げ職員一同利用者様に寄り添い生活支援を行っています。ホームでの余暇活動には、全体で行う季節行事のほか、リハビリを兼ねた創作活動を通じ、笑顔や喜びが感じてもらえる様支援し、個別支援でも誕生日の祝いや、他の事業所との交流等もあり買い物やドライブへの外出など行う事で開放的な気分でも過ごして頂ける様努めています。施設設備面に置いて、各居室が死角とならない様、全体に見渡せ、特殊浴槽やエレベータを使用し、利用者様一人ひとりの、身体状況にあったサービスを提供できる様努めています。地域との関わりについても町内会に加入し行事等にも積極的に参加することや、近所の保育園との交流等毎年おこなわれています。ボランティアで、写真同好会の方々にも季節感の感じる写真を掲示して頂くなど交流を深めています。法人・グループ内の研修にちからを入れており、介護職としての資質を日々高めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は十勝大橋近くの閑静な住宅街に立地し、鉄筋コンクリート造2階建てで、敷地内には介護付き有料老人ホームやサービス付高齢者住宅がある。母体法人の系列には5つのグループホームを運営しているが、防災委員会や苦情解決委員会、身体拘束廃止・虐待防止委員会、事故対策委員会、感染症予防委員会など数々の委員会を開催しており、職員一人一人が責任感を持って参加活動し、人材育成に繋げている。コロナ禍である現在、保育所園児の慰問や、町内会婦人部による花壇整備等の協力、地域のボランティアによるオカリナなどの楽しみごとの支援など、地元の人々との交流・連携に取り組んでいたが、感染症予防の為自粛している。また、外出支援でも大型ショッピングセンターのフードコートや回転寿司等での外食や七夕、動物園見物も自粛している。利用者の楽しみが半減しているが、レクリエーションを増やしたり、職員一人ひとりが思案しながら利用者の身になって対応し、ホームでの感染症予防に対しても定期的な換気など常に気を付けながら、利用者の健康と安全に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
I. 理念に基づく運営								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念や目標を玄関付近に掲示し職員同士で共有し実践につなげている。	法人理念や事業所理念、目標を施設内に掲示し職員が毎日唱和して日々のケアの実践につなげている。コロナ禍の中、利用者が笑顔ある生活ができる様実践していくことに心掛けている。				
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年地域行事や会議に参加しているが、コロナウイルスの流行もあり交流が出来ていない。	町内会に加入し、町内行事や近隣の保育園児の相互交流、小学校とのなど日常的な交流があったが、今回のコロナ禍により、交流は自粛している。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、認知症の方への理解や支援の方法など地域の人々に向けて話していますが、町内会などの行事などはコロナの影響もあり実践できていない。					
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度会議を開催し運営状況や、活動を報告しています、今年度はコロナ感染の状況を見ながら、書面をもつての開催して折れます、書面上で返信して頂き意見をサービス向上に生かしている。	年6回の運営推進会議では、地域包括支援センター職員や町内会長、民生委員、家族等が参加して実施していたが、コロナにより参加者が集まることは自粛している。よって、職員による書面会議を開催し運営状況やヒヤリハット、感染症対策などの報告書を各参加者に送付し、意見や要望を得られるよう努め、得られた内容は運営に反映させている。				
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員の方に運営推進委員会の委員として参加して頂き情報共有を行っている。	市の担当者や地域包括支援センター職員とは、介護保険の更新や生活保護手続き、運営状況などの相談を行い、指導や助言を得て協力関係を築いている。				
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼時、目標を読み上げを行い、職員の周知を行っている、委員会で話し合いを行い人通り理解を得ておりケアに取り組んでいる。	定期的に行っている身体拘束廃止委員会を通して、身体拘束の弊害や具体的禁止行為、不適切な言動について正しく理解し全職員が身に付けており、常に拘束のないケアを実践している。施錠は夜間のみ対応している。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や事業所内での委員会を開き防止に努めている。					

グループホームさくらの苑(ポピー)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、事業所内研修で行っているのですが、コロナ対策で全ての研修委員会を中止している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や運営規定、利用同意、契約書などを家族の方へ一つ一つ説明し理解・納得して頂いたうえで契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは、電話連絡時、面会時の時に、お話し合うように心がけ相談窓口や掲示板・投書箱を設置し、意見や苦情を言いやす環境を作り、苦情等解決委員会でも取り上げ、それを反映させるよう努めています。	利用者からは日常の会話や生活の中で、家族等からは来訪時や電話などで意見や要望を聴くよう努めている。コロナ禍で制限している中、家族が来訪した時は玄関フロアで話などを聞いている。また、苦情委員会を設置しており、運営に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議を開催し職員からの意見や提案を反映し、内容によっては役職者会議上部の会議に議題として意見を出し検討して頂いている。	管理者は、職員が率直に意見等を言いやすい雰囲気大切にしており、朝礼や会議時に話を聴くようにし、職員から出された意見や提案は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に明記し、面談やアンケート等を通じ意見や考えを聴取し、日々の努力や実績を、法人にも報告した中で、職場環境や勤務条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTチェックの面談を实地し一人ひとりの、目標を持って仕事に取り組んでもらえる様計っている。会社全体でもコロナ対策で、研修会は中止となり勉強会の機会無くなってしまっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ対策で研修には参加せず今年は交流を控えたり、同業者の情報交換は行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安な事を少しでも取り除けるよう努力し安心した自分らしい暮らしが出来る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時における、積極的な情報収集家族が困っている事等気軽に相談できるよう、面会時や電話などでのコミュニケーションを取り対応することを心掛ける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望等を考慮しながら本人の出来る事、出来ない事を見極め出来ない所を支援し、着る事が増える様心掛け支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションやお手伝いを通じ、本人と協力しながら一つの事をやり遂げる様心掛けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告のお便り発送や、家族の来訪時にコミュニケーションを多く取り身近な存在と思っていただけの要努め本人、家族、職員の絆を深めて行けるよう心掛けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対策もあり、電話でのお話や、面会時はガラス越しでの対面で時間を短時間として行っています。	コロナ禍以前は馴染みの床屋や自宅を見に行ったり、馴染みの犬を見に出かけることもあったが、現在は自粛中である。家族や友人・知人に電話で話す機会を多くしたり、手紙の代筆をするなど、馴染みの関係継続の為の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場合によっては、職員が積極的に関わる事により、一緒に楽しく会話が出来る様努めています。又一人ひとりのお話や思いに耳を傾け会話するよう努めています。		

グループホームさくらの苑(ポピー)

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談などを受け入れる体制をとっている。					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人の思いや意向を把握し一人ひとりの要望や、希望を聴きその人らしく生活できるよう支援している。	日々の関わりや利用者の行動、また、家族からの意向を把握するよう努めている。把握したことについては、会議等を通じて職員全員に周知し共有化を図っている。				
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供や、利用者様、家族との会話の中から生活状況や馴染みの物などを把握しこれまでの生活歴を大切にしている。					
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア会議、毎日のミーティングの中で、利用者様の個々の状態を職員間で把握するよう努めています。					
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの日々の生活記録を詳細に記録し、ケア会議で、情報を共有し現状に即した介護計画を作成しています。	家族や利用者の意向を取り入れながら、モニタリングや会議で出た意見を基に、6ヶ月で見直して介護計画を作成し家族に説明し承認を得ている。利用者の状況の変化に応じて、随時介護計画の見直しを行っている。	コロナ禍により日常の外出が制限され、利用者の心身にも少なからず影響していると思われる。この影響が今までの利用者の介護記録やアセスメントシート等と比較してどのように心身機能の低下を招いているのか、家族に対する対応もどのように変化しているのか、そういった解明していくことを期待する。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で、変化に気づき工夫した中で、介護記録に記入し情報の共有を行い介護計画の見直しに取り入れています。					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の相談に対し必要であれば他の施設への紹介なども行っている。					
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣保育園の交流や、毎年町内会のイベントなどにも参加していましたが、コロナ対策の為今年には行っていない、保育所からの要請に駐車場の協力は行っている					
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族には協力病院への医療機関受診については、納得されており往診や受診を通じて日常の健康状態を報告出来る様になっています。	利用者と家族の希望に添ってかかりつけ医に継続して受診できるように支援している。協力医療機関の訪問診療や日常の健康管理、口腔ケア等を受けられるよう努めている。				

グループホームさくらの苑(ポピー)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定や日々の生活の中で体調の変化あった時など、看護職員に連絡をし支持を仰ぎ夜間救急などの対応、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関に情報提供を行い、入院中は適時経過を確認し、退院後の受け入れ態勢を整えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の方向性について家族や医療機関と話し合いを行い施設での出来る限りの支援が出来る様取り組んでいます。	重度化や終末期における事業所として可能な支援内容については、利用者や家族の意向を最大限尊重し、ホームとして出来ることを入居時に利用者家族に説明をして、対応指針に同意を得ている。重度化した場合は、利用者や家族、医療関係者と連携し、方針を共有して最大限の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員の緊急時マニュアルを理解し個別に救急方法の研修を受講する。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時には職員のみならず、消防や地域の方々協力を頂き実践的な訓練と避難方法の確認を行っている。グループ全体として災害対策を策定し各施設の協力体制を整えている。冬季の災害想定に備え、自家発電の工事やストーブなどの確保を行っている	コロナ禍で消防職員や地域住民の参加は自粛しているが、火災と水害で年2回避難訓練を実施している。数年前の水害時の経験を基に実践可能な訓練を行っている。ブラックアウトに備え自家発電機が準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間の連携を密にして利用者様の気持ちに寄り添い対応を行っています。	誇りやプライバシーに配慮した声掛けに注意を払っている。トイレ誘導や入浴時など、傷つけないように利用者に優しく接している。外部研修や内部研修を通して利用者の人格尊重と誇り等を職員は理解し、実践に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	身近な、衣類の選択や、お茶の時間の際の好みなど伺い提供するなど、取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や思いを尊重し日常業務や役割への支援や趣味や遊びなどの楽しみを支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は2か月に一度、定期的に来てくださっている行事に合わせ、着る服と一緒に選んだり配慮しています。		

グループホームさくらの苑(ポピー)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は皆さんでそろって食べて頂けるようにしています。お手伝いなども自主的に食事の前のテーブル拭きや、食器拭き、各々食器の下膳等負担にならない様、職員見守りの中行って下さっています。	献立は母体法人の栄養士が作成しており、利用者の能力に応じながら食事準備から後片付け等を手伝ってもらい、楽しみな食事の時間を提供している。利用者は自分好みの茶碗や汁椀、箸、湯呑み、コップを使用している。コロナ禍で外食が出来ない為、出前の寿司等で楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事量、水分量を体調管理表に記入し、水分食事摂取量の把握をしています、食事の際も個々に合わせて、一口大、あら刻み、ミキサー食にするなどし体調に合わせ支援しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に合った口腔ケアを行っている。出来ない方には口腔内を確認を行っている、磨いたつもりでも、残渣があり、誤嚥にならない様支援しています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、尿意や便意のサインを見逃さず、自尊心を傷つけない様さりげなく自立に向けた支援を行っている。	利用者全員の排泄状況を把握し、時間間隔や様子観察などそれぞれのタイミングに合わせて声かけ誘導でトイレでの自立排泄を支援している。リハビリパンツやパット等、状態に合わせた排泄用品で対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事・排泄状況を把握し、歩行運動や体操等の働きかけを、行っている。必要な方は内服薬での調整を行っています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調に合わせて、気持ちよく入浴できる様、努めています。一般浴が2階で、機械浴が1階となっており、ADLの低下の利用者様も多く、状態に合わせて入浴して頂いています。	基本的に週2回の入浴をおこなっている。その日の体調や気分に応じて日時等工夫している。機械浴もあり、利用者の状態に応じた入浴方法で安全に配慮し、心地良く入浴できるよう支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の、居室内の室温や湿度に配慮し気持ちよく休める様、掛物調整なども行い支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的内服の効能の把握につとめ、処方薬の変更の時など、錠数の変更、内服後の様子観察を職員に周知出来る様行っています。誤薬事故防止の為にも二人で確認し、確実に服薬出来ているか見守りの上内服支援しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力身体状況、本人の志向、思いなどを組み入れて行けるよう、レクリエーションや行事等行っています、コロナ過で外出の自粛ある為、気分転換が出来る様な、関わりの時間が少ない状態です。			

グループホームさくらの苑(ポピー)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今もコロナ状況の影響もあり、出来る限りの支援をし行っている。季節を感じて頂けるために、少人数でのマスク着用し散歩等実施している。	夏祭りや花火を楽しんだり、喫茶店に行ってコーヒーを飲むなどの外出支援をしていたが、現在のコロナ禍により自粛している。マスクを着用して少人数で外気を浴びるための散歩を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いについては、ホームの金庫で管理しお預かりしていますが、入所時に手元にお金がないと不安になる方については、家族が小銭をご本人に渡しています。お金を使える支援は行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯電話を持って来られている方もおりいつでも電話をかけていらっしゃる方も居ます、希望があれば、電話を掛けたり手紙を出す等支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内には季節の行事の写真を掲示し観葉植物やお花を飾っており、温度、湿度、空調にも注意を払い、コロナになってからは、1日2回は換気を行っています。	共用空間には、季節感ある飾り付けや行事の写真、観葉植物やお花が飾られている。温度や湿度の管理、定期的な換気、直接手に触れる場所などのアルコール消毒と、感染症予防しながら安心できる環境を支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室の入口から顔を覗かせるといつでも職員や他の利用者様の姿もあり安心して過ごせるような空間になっています。利用者様同士でお話されたり笑い声も響いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より使用している物や、趣味として使用している物などを持ち込み、居心地よく過ごせるよう支援しています。	馴染みのダンスや椅子、仏壇などを持ち込み、家族やペットの写真を飾るなど居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーには手すりが少ない分、テーブルや椅子に伝いながらの歩行練習や、ワンフロアーにトイレや洗面台を設置しており、自立した生活がしやすい様になっています。		